

# 新年

新しい年を迎えて



高山市議会議員 水門 義昭

新年の抱負 「点滴穿石」

小さな努力を根気よく続けていれば、やがては成果が得られるという意味です。今年は、皆さんの絶え間ぬ努力が石をも穿つ、成果が出る年になるようにと願いを込めました。

明けましておめでとうござります。皆さまご健勝にて、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、今なおマスクの着用や手指消毒の徹底、飲食時の感染対策の実施などを余儀なくされています。一方で、コロナと共に生活するウイズコロナ社会へ移行する動きが顕著に表れており、人々はコロナ感染に注意しつつも、できるかぎり普段通りの生活をしようという意識に変わりつつあります。そのため、感染者数の多い現在も、市内には国内外から多くの観光客が訪れ、週末になると朝市や古い町並などで混雑する姿がみられるようになっていきます。しかし、さらなる感染拡大で人の流れが止まってしまう不安や、お客様に来ていただいても働き手が確保できないなどといった切実な声を耳にします。

また、ロシアによるウクライナ侵略やそれに伴う物価上昇、円安など、世界的な混乱が市民生活にも大きな影響を及ぼしており、議会としましては、市民の皆さまの声をしっかりと伺いし、市の施策に活かしていかなければならないと強く感じています。

議会では、来期の議員定数について、市民の皆さまのご意見、有識者からの指導・助言を踏まえ、昨年3月に、現状の議員定数である24人は最低限必要であるという結論を出しました。今後、市では、ごみ処理施設や駅西地区複合多機能施設整備など大きな事業の実施が予定されています。また、人口減少や少子高齢化に伴う支所地域の過疎化、働き手不足などの課題も山積しており、市政の重要な事柄を決定する議会の責任は大変重いものがあります。

私たち市議会では、可能な限り多様な立場や考え方を持つ議員によって議論ができる場を確保することや市民の皆さまの声を踏まえ、議員としての資質を磨き識見を高めるのもちろんのこと、地域の声をもっと聴き、地域課題について地域の皆さまとともに考えていくことや、将来の議員候補を育てていくためにも、女性や若者とともに政策を考えていく取り組みを進めることが重要であると捉えています。引き続き、「市民とともに考える議会」をスローガンに掲げ、市民の代表として、責任ある決定が行えるよう取り組んでまいります。

本年は、うさぎ年であります。跳ねるうさぎのように、市内の景気が跳ねて上向く年となること、また、穏やかで温厚な性格のよう

に安泰で災難のない一年となることを心より願っております。最後に、新しい年が市民の皆さまにとりまして実り多き年となりますとともに皆さまのご健勝を祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。